

令和4年度 指定管理者モニタリング評価表

1. 施設の概要等

施設の概要	施設の名称	YONETSU-KANささおか		担当課	清掃センター			
	所在地	あわら市笹岡第32字88番地2		開設年月日	平成8年10月			
	施設設置目的	圏域住民の福祉増進に寄与するとともに、健康と体力づくりの増進を図るため設置						
	施設内容	敷地面積 12,000㎡ 延床面積 2,600㎡ 一部鉄骨鉄筋コンクリート造 平屋建 【プール】流水プール・25m×3コース直線プール・幼児用プール・ウォータースライダー・ジャグジー 【風呂】一般風呂・薬風呂・水風呂・露天風呂・サウナ 休憩室・レストラン・談話室・ホール・屋外に多目的芝生広場・駐車場						
	指定管理者	イワシタ物産株式会社	選定方法	公募(応募者数2)				
	指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日(5年間)		(3年目)				
	指定管理者の主な業務	YONETSU-KANささおかの管理運営に関する基本協定書、管理運営業務仕様書等に定めた業務 ①管理運営に関する業務 (利用の案内・受付、利用料徴収、プール監視、設備機器運転及び監視保守、広報、多目的芝生広場管理、自主事業の実施等) ②維持管理業務 (保安警備、清掃、各設備保守管理業務等)						
	利用料金制の導入	有	無	指定管理料	有	無		
	施設の利用状況等	指標(単位)	利用目標	利用実績	前年度実績	対目標比(%)	対前年比(%)	備考
		入館者数(人)	128,000	136,158	119,396	106.37%	114.04%	
利用料収入(円)		41,160,000	44,017,300	38,659,050	106.94%	113.86%		
自主事業収入(円)		30,428,000	38,900,591	33,004,369	127.84%	117.86%		
	【特記事項】							

収支	指定管理者収支(令和4年度)		
	項目	予算額	決算額
	指定管理料	40,300,000	40,300,000
	入館料	40,960,000	43,988,300
	利用料	200,000	29,000
	自主事業収入	30,428,000	38,900,591
	計	111,888,000	123,217,891
	人件費	41,400,000	45,710,362
	消耗品費	4,600,000	5,773,387
	光熱水費	26,600,000	30,171,319
	修繕料	1,400,000	2,016,894
	宣伝費	2,000,000	1,270,261
	通信料	300,000	268,251
	保険料	300,000	249,440
	委託料	7,474,000	7,536,930
原材料費	12,838,000	18,222,186	
その他	11,370,000	11,730,491	
計	108,282,000	122,949,521	
損益	3,606,000	268,370	

2. 利用者による評価

利用者アンケート	実施時期	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
	調査対象	入館者	
調査結果	調査方法	受付で入館者に無作為配布・アンケートBOX・電子アンケート	
	調査対象数	163人(男性81人、女性62人、未回答20人)	
利用者からの意見・要望等	【利用者の満足度】	①大変満足 47% ②やや満足 38% ③ふつう 15% ④やや不満 0% ⑤不満 0%	
		○静かでのんびりでき満足 ○おろし蕎麦が絶品 ○桜の薬湯が気持ちよかった ○定期的に新刊が入るのが良い ○サウナのスペックは高い ○食事がおいしい	○スタッフの笑顔が気持ちいい ○きれいだった ●8号線からの入口が分かりにくい ●プール更衣室の床が汚い ●水風呂の温度がぬるい ●露天風呂の浴槽内が滑る

3. 指定管理者による自己評価

令和4年度の自己評価	5か年の3年目になります。やっとコロナウイルスへの対応も一息つけそうな時勢になり、感染者数の増減に一喜一憂することが減り、入館者数も一定の土台が出来、月間の入館者数も1万人を超えることが当然となる状況にまで復活しました。当然ながらコロナで外出を控えていた高齢者層が戻ってきたことや、昨年からブームとなっていたサウナ利用者の増加などが大きな要因となっている事は間違いなく、それに週末利用の小人を連れた家族層の安定した来館が見込めることで、平日・週末問わずの来館者の増加が期待されています。
今後の目標	館内施設のご利用においても、レストラン、店売品等が過去最高売上を出すことが出来ました。各部門スタッフが、来場者の同行に注視し、要望に沿った提供を行なう事で成しえた結果であると自負しております。ただ良いことばかりではなく、世界情勢に発する原油価格の高騰やそれに起因する電気代・原材料費の値上がりなどの影響もあり、売上に見合った利益収入がなく、経営状況は厳しさを増す傾向にあります。そんな中でも館内における電気・水道・ガスなどの節約にあたり、意識は高く保てた一年でもありました。
	上記でも挙げたように、世の中の物価は軒並み値上げ傾向にあり、今後下がる見通しはありません。創設以来入館料の値上げは行なっていない余熱館ですが、昨今の情勢を見ると、値上げという判断も検討すべきタイミングではないかと判断します。平成7年(1995年)から今年で28年となりますが、余熱館という施設あってのサービスであり、その施設を維持管理していく為にも向き合うべき問題です。館内サービスでの値上げは昨年度においても段階的に行なっておりますが、これ以上の値上げはお客様の消費意欲を失わせる事にもなりかねない為、困難になっております。是非の勇断をお願いいたします。
	今後においても、お客様の動向を見定め必要とされるサービスは取り入れて変化して参ります。昨年度より社内制度にて他の施設を当館スタッフが直接行って体験してくるという取組みを開始しました。「見て・聞いて・感じる」を工夫して余熱館のものにしていく。こういった取組みが今後も進化を続ける「原点」になると信じて運営して参ります。

4. 組合の評価

指定管理の成果等	コロナ禍にある中で、サウナブームを利用した商品開発や多彩なイベントを企画し、令和元年度水準まで入館者数を増加に繋げたことは評価できる。今後は、利用客層の変化に対応したサービスを提供し、SNS等を利用した情報発信にも力をいれ、施設運営に努めていきたい。
今後の課題	・施設の修繕については、必要箇所は後手とならないよう率先して対処していただきたい。 ・館内の安全を図るうえで、毎日の機器点検計装については、人員の影響により疎かな部分が見受けられるが、十分な人員を確保し運営に努めていただきたい。 ・SNS等を利用した情報発信に工夫を凝らし、利用促進に努めていただきたい。 ・若年層、家族での利用が増えた一方で、高齢者から「以前の余熱館とは雰囲気が変わってしまった」との声が聞かれるとのことだが、今後は若年層、高齢者が共に利用できる方策を策定し、ふれあい交流の場として圏域活性化の拠点となるような、接遇・運営を行っていただきたい。

判断の基準	組合評価	指定管理者自己評価
S 極めて良好	B	A
A 良好		
B 標準		
C 要改善		
D 早急な改善が必要		